

平成 30 年度

シャングリラ事業計画

1. はじめに

平成 30 年 9 月以降に事業所「シャングリラ」が開所する。事業所の大きな特徴として、個浴型介護浴槽と車椅子介護浴槽を設置し、利用者の身体機能に応じた入浴を提供することになる。高齢化、重度化しても入浴に不安を感じることなく、そして生活の場での支援者の負担軽減にもつながっていくと思われる。この入浴支援を活動の柱とし、働く場や自分にあった活動の場を提供する。また、一人ひとりの時間を大切にし、命の重さを尊重し、高齢知的障害者支援のかたちを創り上げていきたいと考える。今後も高齢化、重度化した利用者は増えると思われる。それに伴い活動内容も多様化し支援体制も充実させていかなければならない。高齢者支援検討チームを立ち上げ検討し実践していきたい。

これからシャングリラが、利用者にとって理想の日中活動の場となるよう、また利用者、職員、地域が一体となった開かれた事業所運営を目指していきたいと考える。

2. 運営理念

○人格、人権の尊重

○健康で生きがいある豊かな生活の支援

3. 運営方針

○健康であること。そして、一人ひとりの時間を大切にし、充実した人生と感じられるよう利用者の個性を大切にし、思いを尊重した支援を提供する。

4. 利用定員及び職員体制

(1) 利用定員

20 名

(2) 職員体制

管理者 1 名

サービス管理者 1 名

生活支援員 7 名

看護師 1 名（兼務）

事務 1 名

外部講師 理学療法士 1 名（3 回／月）

音楽療法士 2 名（2 回／月）

(3) サービス提供日及び時間

○月曜日～金曜日

○管理者が必要と認めた日

○午前 9 時～午後 4 時

5. 支援方針

利用者一人ひとりにあったプログラムの提供と機能維持、向上のための支援、食事、排泄、入浴のための支援のほか、利用者が相談しやすい雰囲気を作りコミュニケーションを大切にしたい支援を行う。

6. 支援目標

- 利用者一人ひとりの思い、時間を大切にする。
- 安心して、ゆったりと入浴を楽しむ。
- 機能訓練の充実

7. 利用者の支援

高齢、重度化により生活の場において入浴が困難になってきている。生活する上で必要な入浴をできる限り毎日、安心・安全に提供する。その他、日常生活上必要な支援を行う。また、理学療法士による機能訓練プログラムを充実させ、運動機能の維持・向上に努める。

生産活動では作業能力に合わせ、作りあげていく喜びを持てるようにする。創作活動は一人ひとりの個性を活かし、希望する活動を取り入れ自信や達成感につながる支援を行う。

活動内容

- 生産活動（CDの仕分け、学習教材の袋詰め）
- 創作活動（園芸、手芸、利用者の希望するもの）
- 余暇活動（昼食外出、カラオケ、ドライブ）
- 音楽活動（月2回、第1・3の木曜日）
- 機能訓練（理学療法士による訓練月3回、嚙下体操、介護予防体操）
- 入浴（個浴、機械浴）
- 行事（忘年会・長寿を祝う会）

8. 健康管理

日々の健康チェック、入浴前の健康チェックの他、月一回の体重測定と年一回の健康診断を行い、健康状態の把握に努めグループホーム職員との連携を密にし、健康管理と疾病の早期発見に努める。

9. 苦情対応

- 苦情委員会を設け、利用者・職員でサービスの内容の検討を行う。
- 苦情解決責任者、窓口委員を配置し、利用者の声を大事にする。
- 内容によっては、第三者委員の指導を頂き、円満な解決を図る。

10. 防災対策

非常災害発生に備え、避難誘導訓練を定期的に行い、緊急事態へも対応できるようにする。また、消火器操作の訓練も実施し防災意識の向上に努める。

11. 虐待防止

虐待防止委員会と連携を図り、虐待防止についての勉強会を実施する。また、定期的に虐待防止チェック（職員セルフチェック）を行う。

12. リスクマネジメント

事業所内は清潔、整理整頓に努め利用者が快適で安全に活動が出来る環境を整える。職員会議においてヒヤリハットを検証し再発防止に努める。

13. 地域との交流

- 土曜市の開催（3ヶ月に一回、第三土曜日に販売、体験を行う。）
- 地域のボランティアの受け入れ。
- 区内中学校の職場体験実習生の受け入れ。

14. 研修

内・外部研修、法人内研修等、自己研鑽の機会を増やし知識・技術の習得につなげ専門性を高める。内部研修では虐待防止委員会を中心に勉強会、その他嚙下障害、機能訓練等は講師を招き実施する。

15. 会議

職員会議 月1回（必要に応じ随時）

個別支援検討会議（随時）

ケース会議（必要時に随時）

その他会議

虐待防止委員会

苦情解決委員会

リスクマネジメント委員会